

# 事例3：最適運用とコスト節減を考慮した取組

## 富士市：B社

分野：工場  
業種：製造業（製紙業）

### 対策の着眼点

抄紙機の稼働停止に伴い、原料や水、排水のバランスが変わるため、最適運用となるように、設備フローの見直しを行うとともに、コストをかけずにできる省エネ対策を検討した。

### 取組期間

平成23年6月中（夏場（7月～9月）の使用制限対策として実施）

### 具体的な取組内容

#### ポイント・その1

##### 求められる即応性

夏場の電気使用制限に対応するため、短期間でかつコストを抑えた対策を実行

- ポンプランナーのカット **60kWh 削減**
- アジテータ羽角度変更 **12kWh 削減**
- 配管ラインの変更 **15kWh 削減**
- 排水設備の運用適正化（運転台数減、系列停止等） **435kWh 削減**

#### 費用

- ・ポンプランナーカット 150万円
  - ・アジテータ調整 4万円
  - ・配管ライン変更 20万円
- その他の取組は発生コスト無し

#### ポイント・その2

##### オフィス部分の対応

- 事務所蛍光灯の間引き 0.8kW 削減
- 自動販売機の省エネモード設定(50台) 4.2kW 削減
- パソコンの省電力設定(180台) 1.1kW 削減

### 今後の課題等

電気料金の値上や、電力使用制限の実施に対応するため、省エネ活動の重要性は高い。省エネ実施箇所の洗い出しと、施設の最適運用の検討・実施を進めたい。